



CPTA2023-05

地域在住高齢者における推定誤差と生活空間の関連

亀田総合病院 リハビリテーション室 稲村泰成

Key words: 推定誤差、高齢者、Imagined Timed Up and Go test

はじめに

客観的な身体機能と本人が認識する身体機能の差(推定誤差)の増大は高齢者の転倒危険因子である。推定誤差増大の関連因子は十分検証されていない。本研究の目的は、地域在住高齢者の生活空間と推定誤差の関連を明らかにすること。

対象および方法

対象は、千葉県君津市健康増進事業の体力測定に参加した 65 歳以上の者。生活空間は Life space assessment(LSA)、TUGT 推定値である Imagined Timed Up and Go test(iTUGT)、と Timed Up and Go test(TUGT)を測定。推定誤差は $[(TUGT-iTUGT)/(TUGT+iTUGT)/2] \times 100$ で算出し、重回帰分析により推定誤差と LSA の関連を推定した。

結果

解析対象者は 84 名で、年齢の平均値(標準偏差)は 76.0(5.3)、女性は 85.7%。TUGT は平均 5.95(0.9)秒、LSA は平均 88.4(15.6)点だった。重回帰分析の結果、LSA と推定誤差に有意な関連は認められなかった。

結語

地域在住高齢者において生活空間と推定誤差に有意な関連は認められなかった。今後は生活空間が狭い高齢者との比較や身体活動量との関連を検証する必要がある。

研究を終えての感想

私のように研究機関ではない病院に勤務する理学療法士にとって、本研究助成は研究活動を飛躍的に高めるきっかけとなりました。研究結果は、研究仮説とは異なるものとなりました。しかし、予想に反する結果が新たな仮説を生み、次の研究につながる視点を得ることができました。現在は、本研究結果を基に計画した研究を、他の研究助成の採択を頂き実行できています。私自身にとって、本研究が 2 本目の臨床研究であり、経験・実績が浅い若手に対しても研究助成に採択して頂いた研究支援委員会の皆様へ感謝申し上げます。今後も地道に研究活動を続けていく所存です。